

## グループ通話アプリに落とし穴？

「グループ通話アプリに死角はないか！」という分会の「かべ新聞」を出したところ、いろいろご意見があった。ある乗務員から「自分も不思議なことがあった」という体験談を掲載します。

過日、のぞみ号博多行きでのこと。京都駅手前、乗務員間で通話アプリを使用し打ち合わせをした。車掌長は通話を切ろうとしたところ、お客様からきっぷの変更の申し出があり、アプリを切り損ねた。車掌長はお客様に「発車した後に発行いたします」と案内し、到着監視に努めた。運転士をはじめ他の乗務員は「アプリを切り忘れていた」と思ったが発車に集中する状況でそのままにしていた。

ドア閉扉、運転士は発車3原則を行い、マスコンを投入しようとしたところ、おかしい現象が起こった。スマホから「のぞみ号博多行き ドアが閉まります。黄色い線の内側にお下がりにください。安全よし!」とスピーカーから駅の案内放送が流れた。

一瞬、発車の条件は整っていると思いつつも、運転士は再度発車3原則をおこなった。発車後、ざわざわした変な感覚になった。

これは**タイムラグの典型**だ。通話アプリでは時と場所によっては15秒ほど遅れてしまうことがあるらしい。通話アプリを切れば問題がなかったのかもしれないが、この時間差が時に安全を揺るがす事態にならないか危惧する。通話アプリの落とし穴はまだまだありそうだ。